

さむい夏

63.11.1

7月から9月までの長雨と日照不足は、町内で栽培されている施設野菜や露地野菜に、生育遅れや障害、品質低下など大きな被害を出しています。これからの天候次第では、被害がさらに広がるかもしれません。また、海水浴場や民宿などの観光面でも、大きな打撃を受けました。今回は、その「さむい夏」がもたらしたものをピックアップしてみました。

野菜からの悲鳴

基幹産業の農業

長雨のときの日照時間は平年の約半分、逆に雨量は2倍となり、気温も平年と比べ1.3度～4.2度も低く、気象観測上例のない天候となりました。日光浴をしたくても太陽が出ない、水びたして土からの養分ももらえない、今年の野菜はダブルパンチを受け「助けて」と叫んでいるようです。

トマト ブロッコリー

強い日差しを好み加湿を嫌う作物、今年の天候は最も悪です。収穫期はこれからですが、8月から9月に植えたものは水はけが悪いため、根のいたみが多い。収量は20%～30%減。

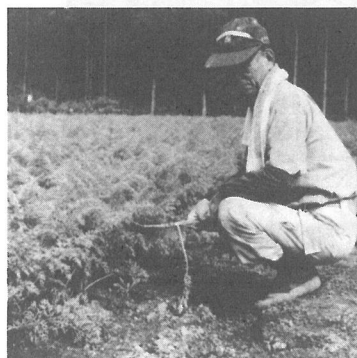


大きな被害を受けたハウストマト（中台）

水田の裏作は、畑に植えたものよりさらに被害が大きいようです。

ニンジン

葉の色が悪く、黒葉枯れ病などが発生し、株全体が腐りはじめているものもあります。生育遅れは、これからの天候次第。



←これではもう育たないんだ（中台）

水はけ対策にひと汗（鳥喰下）